
『ときメロ』小ネタ集

兎浪みなと

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『ときメロ』小ネタ集

【Nコード】

N3560W

【作者名】

兎浪みなど

【あらすじ】

過去のweb拍手小話を公開して欲しいというご要望をいただきましたので、こんなページを作ってみました。
小ネタや番外編などをちょこちょこ追加できたらいいなと思っています。

作者&静流対談（前書き）

2nd Phase開始直後のweb拍手小話です。

作者&静流対談

作者「2ndシーズンスタート！ キャラも大方そろったし、セツトアップが終わって、これから一層動かしがいあるよね」

？「うん…… ほぼ出そろったよね、約一名を除いて」

作者「ハッ！ 貴方は…… ち、違うの、忘れていたわけでは決してなくて、

シナリオの構成上やむを得なく……！」

？「クス、大丈夫、別に気分を害したりはしてないよ？

途中で新たなキャラを投入して物語にアクセントを付けるのは、創作セオリーの定石だよね」

作者「そうそう、貴方はいわば秘密兵器というか」

？「そんな安西先生みたいな台詞に丸め込まれるほど単純だと思われるなら

心外だけど、理解は示すよ。キャラなんて所詮作者の駒だしね」

作者「いやいや、そんなことないです！

みんなまるで子どものような親友のような、大事な大事な存在です！」

？「へえ？（肩をすくめて）ま、そんなことはどーでもいいんだ。

ただ…… これで半端なシナリオ描きやがったりしたら、その時は覚悟してね？」

作者「か、覚悟……？」

？「例えば、こないだの余興であんたがやった痛々しいAKBコスをネット流出させるとか」

作者「マジで誰も喜ばないからやめてください！！」

？「なら、ない知恵ふり絞ってせいぜいがんばって（ニッコリ）」

作者「精一杯やらせていただきますが、期待しすぎず、お待ち下さい……（滝汗）」

キャラ設定 〃ファッション編（前書き）

服装考えるの好きですが、いちいち描写するとウザイかなと控えます（笑）

和希はキャラの好みに合わせて日々全身姉の着せ替え人形状態ですが、

個人的にはショートパンツが一番似合いそう。

引きしまった太ももと脚線美の健康的な色気（＊´ 旦 ＊´）ハアハア

キャラ設定　↳ファッション編

煌…持ち服は多くはなく、お気に入りのジーンズをはき倒し中。でもオシャレはわりと好きで、ベルトやアクセサリーなどの小物でアクセントをつけるカジュアルスタイル。

悠斗…センスは悪くないけど、男が服に気を遣ってどうすると思ってる。着心地重視のシンプル主義。

王子…普段から、シャツにネクタイを基本にした英国風トラッドを、きっちりしすぎず自然に着こなす。

静流…毎週ショッピングに行く『ときメロ』のオシャレ番長。流行アイテムもちよっと個性派も積極的にとり入れる、こなれたストリートカジュアル。

魔王…いつも黒ずくめ＋シンプルなブランド小物のホスト風。ライブではゴシックやゴスロックでのビジュアル系。

危険な夜？（前書き）

web拍手より。悪ノリします。

危険な夜？

52話の和希が浴室に向かう途中の出来事。 B L・下ネタ注意

洗面道具を持って浴室への廊下を歩いていたら、息をひそめて一つの扉に張り付いている芽生を発見した。

「何やってんだ？ ここ、悠斗と静流の部屋じゃ……」
「シッ、静かに！」

真剣そのものの表情で、耳をぴたりとドアに押しつけている姉貴。なんだあ？

おれも真似して耳をそばだてると、中からなにやら面妖めんような会話が聞こえてきた。

「うわ、悠斗さん、すごい。どんどん大きくなっていく……」

興奮と感嘆が混じったような静流の声。

はあっと大きく息を吐き出してから、わずかに呼吸を乱した悠斗が「馬鹿」と声を荒げる。

「そんなに強く握るな」

「すご、めっちゃ堅い。でも、こんなにパンパンだときつくない？ ちよっと抜いてあげようか？」

「なに勝手なこと……こらー！」

「根元を軽くつまみながら、てのがポイントなんだよね」

「静流……！」

——『アッー！』——！？

思わず固まっていたら、ため息をつきながら悠斗が出てきた。

ドアを引かれてよろめくおれ達の姿をみて、いぶかしげに首をかしげる。

「和希に芽生？ どうした、こんな遅くに」

開いたドアの隙間から見たのは、巨大なビーチボールを手にした静流の姿。

「あ、センパイ！ これ、海の家で売ってたんだ。このサイズはちよつとすごいでしょ？ 明日はこれで遊ぼう」

……なんだよこれ誰得イベント……！？？

「ごちです」

なぜか満ち足りたように瞳を輝かせながらこっそりと親指を立てて呟く姉貴が、あまりにも理解不能だった。

うかつな魔王様（前書き）

妖艶キャラのはずだったのに……

うかつな魔王様

54話以前の別荘にて、寝込む魔王とロンの会話。

ロン「そんな落ち込むくらいならさっさと電話なりメールなりで連絡取ったらいいんじゃないっすか？」

魔王「……」

ロン「ま、まさかまだ彼女のメアド知らないとか？ マジで！？もう何度も会ってるのに……」

魔王「おまえの咽喉をひねり潰してやれば、その耳障りな声を二度と聴かずにすむのだな……（バキボキ）」

ロン「ひいひい失言でしたーすみません！ そっか、魔王サマってばいつも言い寄られる側だから、攻めの基本にうといわけね（ざまーみる）」

魔王「貴様……今『ざまーみる』とか思わなかったか？」

ロン「滅相もない！ ……っかし女にかけては百戦錬磨の魔王サマがメアド交換すら手間取ってるなんてねえ（ニヤニヤ）」

魔王「フン、そんなもの、いつでも手に入れてみせるわ」

55話後。

魔王「……」

ロン「（鼻歌……ご機嫌……。）で、メアド交換できたんですか？」

魔王「！（↑忘れてた人）」

さらに後日談。

魔王「~~~~」

ロン「（魔王サマってばまた鼻歌歌ってるよ。でもなんの曲だ？）」

魔王「~~~~」

ロン「……っ（消臭カー！？）」

遊び仲間

静流、魔王、ロンの3人で夜遊び中の1コマ。

？何したい？

ロン「そういえばさー、あのお嬢ちゃん元気？」

静流「センパイ？ うん、相変わらずのキラキラ笑顔で毎日癒してくれるよ」

ロン「アイツのあのまっさらで鼻っ柱の強いところ、いいよなー。調教とかしてみたいなー」

静流「ええーオレなら思いっきり甘やかしてあげたい」

魔王「……………」

静流「魔王サマはセンパイにどうしてあげたい？」

魔王「……………フッ」

ロン「（ぼそぼそ）とりあえず今そうとうエロいこと考えたよなー」

静流「（ぼそぼそ）絶対考えた」

？よくみると涙目（ウソウソ）

静流「そうそう、合宿ではお肉ご馳走様」

ロン「肉？（静流から詳しくきいて）プッ……………ギャハハハハ、魔王サマらしいー！」

魔王「何がおかしい……………？（ユラリ）」

ロン「いいえ何にも！」

静流「合宿ほんと楽しかったなーセンパイの水着姿とかマジ天使」

魔王「！ 水着……………だ、と……………!？」

ロン「写真とかねーの？」

静流「そんなもの残すわけないでしょ（フツ）」

魔王「……フン、たかが水着ごときで勝ち誇るなど、貴様も落ちたな紫葉静流！ それで自慢のつもりか！ 愚かな！」

静流「別にそんなつもりはないけど……（うらやましいんだ）」

ロン「（うらやましいんだな）」

s p e c i a l t h a n x t o 始秋さんv

裏座談会／不毛なおっぱい論争

静流「先日の合宿では、センパイのまぶしすぎる水着姿にみんなしてテンションだだ上がりだったわけだけど……ぶっちゃけ、あれ、本物だったと思う？」

煌「本物つつーと？」

静流「胸。谷間くつきりですごくふるふる揺れてたけど、最近のパッドはよくできてるって言うし」

煌「……（なんとも言いがたい顔で沈黙）」

王子「うーん、確かに、華奢きゃしゃな印象だっただけに……まさかあんなにグラマーだとは思わなかったね」

悠斗「……別に本物でも贗物にせものでもどっちでもいいだろう」

静流「ああつまカッコつけて。あんたのそーゆーところが腹立つ」

悠斗「なっ……まあ、長年そばで見てきたが、いきなり成長しすぎだとは、思う」

静流「クス、本性だしたね？ 長年そばで何を見てきたんだか。このムツツリスケベ」

悠斗「おまえな……！」

王子「正直僕もどちらでも構わないけど……女性の水着は平均的に

2カップは増量していると聞いたことがあるな」

静流「煌先輩はどう思う？ やっぱ盛ってるのかなあ」

煌「……さあな（↑真相を目撃してしまった人）」

王子「あれ？ 心なしか赤くなってないかい？」

悠斗「……あやしい」

静流「まさか事実を知ってるの？ もしや居候という立場を利用して着替えや入浴をのぞき見とか……うわ煌先輩最低」

煌「勝手に人を犯罪者にすんじゃねえ！！」

魔王「そこまで落ちたか、金城煌！」

煌「って旺真！？ どこから出てきた！？」

魔王「俺の見立てでは間違いなくあいつはAカップだったが、胸はもめば大きくなる……チツ、危惧していた通りだ。一つ屋根の下で何も起こらないわけがない。貴様、嫌がる和希を無理矢理……人間のクズだな！」

煌「話ぶっ飛び過ぎだったの！ てかおまえにだけは言われたくねーし！ 何も起きてねーよ。マジ表彰もんだぜ、俺の鋼の理性！」

静流「こっちも本性できた。センパイに言っておこう……煌先輩がスキあらばセンパイの身体を狙ってるって」

煌「だーかーらーエセ事実をでっち上げるな！ …… なんだよ、旺眞もやっぱでかい方がいいわけ？」

魔王「フツ愚問ぐもんだな。これだからDTは……。重要なのはサイズではない。形、弾力、そして感度だ（カツ）」

悠斗「……どーしよーもない台詞を眼光光らせて偉そうに言っな」

王子「（ポツリと）そういえば、魔王くんだけ、和希ちゃんの水着姿みてないんだよね」

魔王「！」

静流「あつ、王子先輩、それは禁句……！」

魔王「（ヒクヒクと額を震わせながら、凄艶せいえんに微笑む）…… たかが水着ごときで大騒ぎするなど哀れなことだ。事の真偽はそのうち俺がこの目で直に確かめてやるから、貴様らはずっと底辺で悶々としているがよい」

静流「その役目を魔王サマに譲るつもりは更々ないけど、どうせ脱いじゃえばバレるのになんで水増しとかするかな」とは思うよね」

悠斗「ならおまえは、実際小さかったらガツカリするのか？」

静流「（虚をつかれたように瞬きしてから）…… センパイとそーゆーシチュエーションになったら、舞い上がったちゃってそれどころじゃないかもね」

煌「…… だよな。（周りの探るような冷たい目線に気付き）な、な

んだよ、だから何にもないって！」

王子「もちろん、あつたらフルボッコじゃすまないよ？（ニッコリ）」

煌「あ、梓茶……？」

王子「ええと、つまり結論をまとめると——『和希ちゃんのおっぱいなら大きくても小さくても至宝であることに変わりない』ということではOK？」

悠斗「……すごいまとめ方だな……」

魔王「キラキラしながらこの男……あなどれん」

静流「なんだかんだで王子先輩が一番、ただもんじゃないと思う……」

煌「同感」

番外編？　く和希クッキングするの巻（前書き）

芽生視点です。

まだ残暑の厳しい9月中旬のエピソード。

番外編？　く和希クッキングするの巻

な、なに、この酸っぱい中に微妙にアーモンドの香るような摩訶まか不思議なおい！？

2階の自分の部屋で寝転がって漫画を読んでいたあたしは、不意に鼻をついた異臭に飛び起きた。

階段を駆け下り、発生源と思われるキッチンに飛び込むと、お玉を持った和希が朗ほがらかな笑顔で出迎えた。

「お、芽生、ちょうどいいところに！」

って、かかか和希、何その格好！

あたしがぶったまげたのは、和希が、普段煌くんが使ってるカフエオレ色のシンプルなエプロンをつけてる——のはいいとして、そこから伸びるほっそりした白い手足がむき出しのまま、一糸たりともまとっていなかったからよ！

つまりどういう状態かといえば。

禁断の裸エプロン……！！

——かと思いきや、くるりと後ろを向いた和希はキャミソールとショートパンツ着用。

まぎらわしい。

「いつも煌にはっか作らせても悪いからさ、今日はおれが夕食に挑戦してみたんだ。つってもただのカレーだけだな」

ちよつと照れたように笑う和希は可愛いけど……ただのカレー？
ただの？？

鍋をのぞきこむと、レンコンやら魚の骨やらなぞの粒粒やらがところどころでダマを作りながらゴボゴボと煮立っていて、まさしく地獄の釜状態^{かま}。

しかもなぜか——青い。

あまりの光景に唾然^{あぜん}としていたら、ガチャツと玄関の開く音。

「ただいまー」

「煌も帰ってきたか。おっし、第一号はあいつに食わせてやろう……」

「ま、待ちなさい、和希！」

「おかえりー」

「ご機嫌で出迎えた和希を見た瞬間、煌くんはガタガツと大きくあとずさつてドアに思いつき背中をぶつける。

真っ赤になつて口をパクパクさせたあと、震える声で

「おまえ、その格好……！」

「なんだよ、エプロンくらいで大げさな。勝手に借りたのは悪かったけど、今日はおれが飯作ってみたんだ。今ならできたでござ……こちこつち」

弾む足取りできびすを返した和希の後姿で真相を知り、どつと疲れたように肩を落とす煌くん。

心中お察しいたします……。

って同情してる場合じゃない！ あんなの食べさせたら好感度大幅ダウン間違いないでしょ！？

焦ってキッチンにかけ込んだけど、和希はもうさっさと皿にこんもりとカレー（？）を盛り付けて、食卓に並べていた。

「ほら、食べてみてくれ」

「……………」

部屋に入ってきた煌くんの表情が、一瞬にしてピシッと固まる。

「和希特製カレー。隠し味に色々工夫してみたんだ。はい、あーん」

無駄にテンションの高い和希はわざわざスプーンですくって煌くんの口元に青いソレを運ぶ。

な、なんという恐ろしい「あーん」！ 悪魔や、ここに天使の顔した悪魔がおるで！

いったいどんな原理だか盛んにどす黒い湯気をかもしだす、間近に差し出されたソレに煌くんはヒクヒクと口元を引きつらせていたけれど、意を決したようにパクツと食いつく。

貴方こそ勇者！！

瞬間、彼の両目からぶわつと涙が溢あふれた。

……ああ、ウ・コ味のカレーか和希のカレーかと二択を迫られれば、あたしは確実に前者をとる……！

「ど、どうした、煌！？」

「……和希。ちょっとおまえも食べてみる」

口元を押さえてうつむく煌くんにながされ、和希も一口パクリ。

「ぼぐうつ」

奇妙な悲鳴とともに、柔らかそうなセミロングの髪がテーブルに沈んだ。

「……わかったと思うが、おまえの料理の腕は非常にヤバイレベルにある」

大量に水を飲んだ後、復活した煌くんに渋い顔で諭^{さと}され、しょぼんとうなだれる和希。

「はい……」

「今までは俺が作れるから別にいいかと思っていたが、さすがにこれはまずい。最低限の基本は身につけてた方がいい」

「はい……」

「つーわけで、今後毎週一回は料理講座を催^{もたら}すことにする。異論は？」

感情を抑えこんだような声で話していた煌くんが、一転口調を和^{やわ}らげて出した提案に、和希は意表をつかれたようにぽかんとしてから、パツと顔を輝かせる。

「教えてくれるのか？」

「ああ。少しくらいは料理もできないと、俺が病気で寝込んだり出張でいないとかなった時、困るからな。将来的にも」

「まて、なんだよ将来って!？」

「だから、結婚したときに備えて」

「しねーから!」

いつものかけ合いを始めた二人を眺めながら、あたしはうーむと腕を組んだ。

あんな超次元物体を食べさせたにもかかわらず、煌くんの親密度が下がった様子はない。もはや料理が下手とかそんな欠点は無意味なレベルまでがつつり惚れてると？

あまつさえ、料理講座なんて新たなイベントまで発生させるなんて……この天然乙女ゲーマスター、ほんとあなどれない……！

ちらりと視線をやった先には、世にも奇妙な色合いと香りを放つ例の一品。

どーやったらこんなとんでもない代物が出来上がるんだか。

これこそ真・魔法のカレー？　なんてね。

——おそまつさまでした！

番外編？　く和希クッキングするの巻（後書き）

他のキャラに食べさせた時の反応予想

悠斗↓率直にまずいと言う。でもがんばって食べようとする。でも途中で気絶する。

王子↓蒼白になりながらも「美味しいよ」と笑顔で完食。直後に緊急入院。

静流↓「斬新だね」「さすがセンパイ、一味も二味も違う」と微妙な褒め言葉を並べつつ、「今おなが空いてないから残りは家に持って帰らせてもらうね（ごめんセンパイ……！　オレはまだ死にたくないんだ）」。

魔王↓一目見るなり「なんだこれは」「豚のエサにもならぬだろう」「何を召喚したんだ貴様は」などと散々罵りつつ、「仕方ないから一口だけ食べてやろう……（カツ）……美味しい（素）」。

ロン↓「ありえねー！」と爆笑してからあっさり三角コーナーに流す。シヨックを受ける和希を楽しそうに眺めつつ「こっちのが美味しそうなんだけどな」（ニヤニヤ）

ブラコンではなく

ロン「そーいや詩衣菜、前に魔王サマが本気で好きになる女が現れたら呪ってやるとか言ってたなかつた？」

詩衣菜「……あのこはいいの」

ロン「おおっブラコン卒業か」

詩衣菜「……（はんぶんおとこだから。ロン×旺眞↓和希……さんかくかんけいキタ……！）」

実は腐女子だったりw

ちなみに他のキャラの兄弟関係　本編には出番なし。

蒼木花凜・^{かりん}颯太^{そうつた}……悠斗の妹&弟（中2）。仲良し双子。素直で明るい花凜とちよつと生意気だけど優しい颯太。二人とも、和希によく懐いている。兄のもどかしい恋愛を密かに応援中。

北王子千尋^{ちひろ}……王子の姉（社会人）。かつて「美楠のオスカル様」と讃え称された男装の麗人。まだ20代半ばにして北王子グループを切り盛りするさっそうとしたやり手美女だが、美少女好き。

煌と静流は一人っ子。

悠斗に愛の手を（前書き）

活動報告で「和希は酔ったら甘えんぼになりそう」と呟いた所

「悠斗と一緒に飲むと悲惨なことになりそうですが、きつと和希が飲むときは自分は飲まずに（内心うはうはで）お世話係に徹するんでしょうね」との素敵メッセをいただき、妄想。

（74話後、悠斗が可哀想すぎる！ 愛の手を！ との声をたくさんいただいたので……救済策？）

悠斗に愛の手を

悠斗「和希。大丈夫か？ 水だ（コップを差し出す）」

和希「あ、悠斗……（とろんとした目で抱きついて頭を押しつけるようにぐりぐり）」

悠斗「（内心ドッキドキだけどしかめっ面で）馬鹿。飲み過ぎだろ。帰るぞ」

和希「悠斗、なんかいい匂いがする」

悠斗「！？ ……剣道の後シャワー浴びてきたからか……？」

和希「ん？ ……（あちこちをクンクンしてたと思ったらいきなりパクツと悠斗の右手にかみつく）」

悠斗「！！！？？」

和希「ここから手羽先の匂いがした！ さっき手羽先食べただろ？」

悠斗「おまえは犬か！」

和希「おれ手羽先好き」（満面とろけそうな笑顔）」

悠斗「いいからもうおまえは帰って寝ろ」

和希「うん。おやすみ……（膝枕）」

悠斗「っでここで寝るな……っ！」

お世話係という名の役得。

悠斗に愛の手を（後書き）

逆に生殺しかもという気もしないでもない。
ああ、不憫キヤラ。

がーらずとーく(前書き)

リクエストにお応えしてW
BLネタ注意。

がーるずとーく

かな「えー、今日は『ときメロ』女子会にお集まりいただき、ありがとうございます。

作者から幹事を任されたかなです。この場は男子禁制の
パラレル空間、

本編の流れ無視して好きにしゃべってくださいと言われ
ておりますので、

思う存分盛り上がっちゃいましょう♪んじゃ開始ー」

芽生「詩衣菜ちゃん、さっそくだけど、悠×静は？」

詩衣菜「正義！　口×魔は？」

芽生「主食！　……（ガシツと握手を交わしながら）熱い夜になり
そっね」

詩衣菜「おねえさま……！（無表情ながらほお紅潮）」

和希「っておまえら何の話してんだよ！」

詩衣菜「がーるずとーく」

芽生「あ、あんたも女子にカウントされたのね」

和希「おれは男だー（涙）」

芽生「ま、いいわ。あんたはその辺で一人ケータイでもいじってな
さい。

——やっぱり旺眞くんは受よね」

詩衣菜「プライドの高いお兄様がまさかの下克上で屈辱に震える姿、萌え」

和希「なんかハキハキしゃべってる！ 明らかにいつもとテンション違うだろこいつ（汗）」

芽生「わかるわっ！ 昼と夜では立場が逆転つてのがポイントよね。でもってロンがまた鬼畜だから、色々と美味しいのよねー。

旺眞くんは文句なしに美しいし、けなげだし」

和希「けなげ！？ 魔王が！？」

詩衣菜「好きなくせに精神的にも肉体的にも追い詰めていたぶってしまう」

屈折した愛情。

それに翻弄され、ボロボロになりながらもいつしかロンから離れられなく

なっているお兄様……ビバ王道カップリング」

和希「いや、思いつき裏街道突っ走ってるから！ どう考えても茨道だから！」

芽生「俺様キャラって受にしたくなるわよねー。あと、ストイックキャラ。

生真面目だといじめたくなっちゃう……だから悠斗くんも本来は受なんだけど、

静流くんは絶対誘い受だから、この二人だと悠×静がしつくりくるのよねー。

3年後くらいの静流くんだったらリバ可」

詩衣菜「悠斗受なら煌×悠斗支援」

かな「それはまたじれったそうなカップリングですねえ」

和希「かな！？ おまえも腐ってたのか……！（ガーン）」

かな「別にこれくらいは女子高生の嗜みでしょ？」

で、煌×悠。あの二人ってどっちも相手が大事すぎてなかなか手が出せない

タイプじゃないですか」

芽生「否。煌くんが強引にできないのは父親のことがある和希の場合だけで、

他のカップリングなら強気に攻めるキャラよ、彼は。

煌くんは男同士でも好きになったものはしょうがないって割り切るけど、

悠斗くんは葛藤するのよね。

でも、ガンガン積極的な煌くんのアプローチに次第にほだされていく悠斗くん……

この二人はお互い一目置いてそうだから、対等な関係性にグツとくるわ」

かな「なるほどね。じゃあ煌×旺真なんかは？」

詩衣菜「キタコレ」

芽生「基本フレンドリーな煌くんが唯一仲悪いのが旺真くんなわけだから、

これはもうくつつくのも時間の問題よね」

和希「なんなんだよその理屈！」

詩衣菜「嫌よ嫌よも好きのうち」

芽生「悠×静にも共通するところがあるわよね。

どっちも受が素直になれないところが可愛い」

かな「ふむふむ。王子先輩は？」

芽生「私的には彼は裏ボスの最強攻。

だけど白王子なら受もこなせる器用なオールラウンダーね」

詩衣菜「少年時代の梓茶×煌はほのぼの切ないシークレットベース
く君がくれたもの」

かな「読者様からは『酒酔い悠斗×魔王様』なんて提案もあった
そうです」

和希「……マニアックすぎるだろorz」

詩衣菜「恋愛下手な悠斗さんとツンデレなお兄様のもどかしいピュ
アラブ展開。

しかしある日酔った悠斗さんがたまりにたまった本音と欲
望をお兄様にぶつけて

二人の関係は一気に大躍進」

芽生「かと思えば翌日悠斗くんの記憶は飛んでて後戻り……

うわなにこれじれったい甘酸っぱい！」

詩衣菜「おねえさま、わたし——ど、動悸が止まらない」

芽生「あたしもよ。この全身にみなぎる激しいパトス——描かなきゃ！

創作で発散しなきゃ！」

和希「おまえらマジで早くカエレ」

芽生「あ、ノマカプ合わせた一番人気はちゃんと和希総受だから安心してね」

詩衣菜「さすが公式の天然誘い受」

和希「受とかいうなあああ——！！」

s p e c i a l t h a n x t o 始秋さん

秋アウター妄想

○キャラ達が着そうな秋アウターを妄想。

和希↓赤のダブルボタンのピーコート。黒のファーつきモッズジャケット。クリーム系のゆるいミックスニットカーデを着まわし。

煌↓黒のスタンドカラーのライダーズジャケット。

悠斗↓ネイビーのスタンドネックのミリタリーブルゾン。

王子↓正統派の仕立てがいいベージュのトレンチコート。

静流↓グレーのショート丈のダッフルジャケット。ニットのロングカーデとかドットやチェックの柄パーカーとか日によって色々。

魔王↓ロックテイストの入った大きめ衿の黒のロングトレンチ。

ロン↓グラデーション入った豹柄ジャケットとか、ムラ染め加工に柄のパーカーとか、不思議な色合いの毛足の長いカーデガンとか

ww

キャラ設定　↳ 苦手・弱点編

和希…クモは生まれつき駄目で、間近で見ると平静を失う。料理の腕も煌に習ってどうにかなる次元ではなく、触れたものを魔界の味に変えるマジカルクッキングスキルは健在。

煌…実は音痴。うっかりカラオケで無理矢理歌わされたりすると、室内になんともいえない空気が漂い、歌わせた人は超後悔して内心謝り倒す。しかし恥ずかしそうに歌う姿は好評だったりする。

悠斗…絵がありえないほど下手。犬を描いても顔は猫(?)で胴体から棒が4本突き出したお彼岸とかに飾るナスの動物にしか見えない。その絵のもつ腹筋破壊力はしょうこおねさんに匹敵する。

王子…弱点といった弱点はなさそうだけど、ファーストフードを食べると蕁麻疹が出たりする。感覚が敏感なので強い匂いは苦手。でも同時に匂いフェチで、和希の匂いは大好きらしい(笑)

静流…暗くて閉ざされた場所。寝るときはいつも明かりをつけたまま寝る。(誰かと一緒なら大丈夫。)蛇やムカデなどの細くて長い生き物も苦手。魚も骨が多くて食べるに嫌いから嫌い(笑)

魔王…アクションゲーム。絶望的なほど鈍臭い。でも悔しかったからマリオは家で何度も練習してなんとかクリアした。部屋に色んな

ソフトを持ち込んでサクサクプレイする和希を、こっそり尊敬の眼差しで見つめてたりする。

ロン…赤ちゃん。ぐちゃぐちゃに踏みにじりたくなるから近寄らないようにしているらしい（爆）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3560w/>

『ときメロ』小ネタ集

2011年12月10日18時58分発行